



## 水の中を<sup>さぐ</sup>探る

### (その3) 川の魚

川やため池には、植物だけでなく生物も生息しています。ここでは、みなさんの学校のまわりでよく見られる魚を紹介しましょう。また、実際に魚を捕獲して図に色を塗ってみましょう。

■**ヤリタナゴ** 体長8～13cmくらいの魚で、<sup>こい</sup>鯉のように口ひげを持っています。



春になると雄の体は美しく色付き、<sup>めす</sup>雌を求めて泳ぎまわります。雌が卵を産むときは、<sup>しやうかい</sup>図のように腹から長い産卵管を出し、<sup>じっさい</sup>イシガイやカラスガイの貝の中に卵を産み付けます。<sup>ちぎよ</sup>稚魚は、貝の中で産まれます。

■**ウグイ**



体長20～65cmで、春、<sup>さくら</sup>桜の咲くころ雄の腹が赤く美しくなり「桜ウグイ」と呼ばれています。食用になりますが、<sup>こほね</sup>小骨が多いので食べる時気をつけましょう。

■**ナマズ**



体長15～30cmで、<sup>ようぎよ</sup>幼魚の時は口ひげが6本ありますが、体長が6cmを超えると4本になります。夜、主に活動し小魚を食べます。体はぬるぬるしていて<sup>つか</sup>捕まえにくい魚です。「夜の川の<sup>ほうくん</sup>暴君」といわれていますが、池などにも生息し食用になります。

■**コイ**



体長が50cm～70cmになり、色のついた<sup>ひごい</sup>緋鯉や<sup>うろこ</sup>鱗の少ないドイツ鯉などの種類があります。古くから勢いのよい魚として「鯉のぼり」として空を泳いだり、「鯉の<sup>たき</sup>滝のぼり」の絵などに描かれています。実際に滝をのぼるのは<sup>あゆ</sup>鮎やサケ、マスなどで鯉には無理です。

■**フナ**



体長20～30cmで、鯉によく似ていますが口ひげはありません。ゲンゴロウブナやギンブナなどの種類があります。一年に一度ため池の水を抜くときに、ほかの魚と<sup>いっしょ</sup>一緒にたくさん捕れます。

■**ドジョウ**



10本の口ひげを持つ10～15cmの細長い魚で、食用になります。えらだけでなく<sup>ちやう</sup>腸でも呼吸し、<sup>こきゆう</sup>プクッと<sup>あわ</sup>泡を出すので「ドジョウは屁をこく」といわれています。小川などにたくさん見られましたが、最近では農薬の使用などによりその数は少なくなっていました。